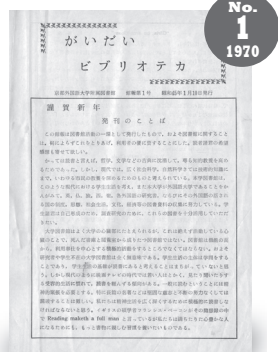


# GAIDAI BIBLIOTHECA 200th ISSUE ANNIVERSARY

『ガイドイ ビブリオテカ』小史  
創刊に携わった人たちを中心に

奥 正敬



## ■はじめに

本学図書館の館報である本誌『GAIDAI BIBLIOTHECA (ガイドイ ビブリオテカ)』は、お陰様をもちまして記念すべき節目となる第200号を刊行するに至りました。

昭和45(1970)年の1月10日に創刊されて以来、43年もの長きにわたって学生や学園関係者の皆様をはじめ、学外の方々からご執筆をいただくなど、多くのご支援を賜ってまいりました。ここに厚くお礼を申し上げます。

## ■森田館長のもと、稀覯書を収集

本誌の創刊号が刊行された昭和45(1970)年は、海外でベトナム戦争が続く一方で、国内においては3月から大阪で日本万国博覧会が開催され、高度経済成長を印象づけました。また、秋には人口が1億人を突破して、自動車が4世帯に1台の割合で普及するなど、まさに活気に満ちあふれた一年でした。

このような中で、本学園は創立以来23年の歳月を重ね、翌年の大学院外国語研究科の開学に向けて教育研究体制が飛躍的に充実していた時期であります。

図書館では、昭和43(1968)年に第3代館長に就任していた森田嘉一教授(現在の本学理事長・総長)のリーダーシップのもと、世界の稀覯書の収集が強力に進められていました。この収集の特徴は、外国の文化研究を支援するための聖書や思想書(「聖書コレクション」)をはじめ、専門教育の資料的基盤となる言語・語学辞典や百科事典類(「古辞書・古事典コレクション」)、また、西洋言語による日本研究書(「ニッ

ポナリア・コレクション」)、さらには、日本人による対外交渉の資料(「対外交渉史料コレクション」)を根幹にしたものであります。

学内ではこうした図書館の蔵書構成の発展と充実を背景にして、教員や研究者が論文や著書を刊行するなど多くの業績を挙げており、その気迫と熱気は当然のことながら資料を提供する側の図書館にも伝わり、図書館からのさらなる情報発信を促す力になっていました。

## ■発刊のことは

このような雰囲気の中で、昭和44(1969)年の秋頃から図書館報の刊行計画が進められました。この頃の図書館の運営体制は森田館長のもと、湯木満寿美課長(後に英米語学科教授・故人)、吉村善太郎係長(後に副館長・故人)の二人が実務指導にあたっており、館報の編集も森田館長の命を受けた二人によって始められました。

こうして刊行された『ガイドイビブリオテカ』創刊号(本号の表紙に写真を掲載)は、B4サイズ用の紙1枚の両面刷り全4頁からなり、その冒頭には「発刊のことは」が掲げられています。そこには、

「この館報は図書館活動の一環として発行したもので、およそ図書館に関することは、何によらずこれをとりあげ、利用者の便に資することにした。読者諸君の希望〔と〕感想も寄せて欲しい。」

と記されています。この創刊号には新着図書案内、名作シリーズ、寄贈図書案内、さらには教員のコラムなどが載せられています。特に「名